

西 邑 楽 高 等 学 校 学 校 評 価 一 覧 表 ② (平成24年度版)

(様式2)

羅 針 盤		達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		①				②	総合
I 特色ある学校づくりを推進する。	1 学力向上を根幹として、各学科(普通科、スポーツ科、芸術科)の目標達成に相応しい教育課程を編成・実施する。	・習熟度別授業(数学・英語)に85%以上の生徒が満足している。 ・専門教科の授業に85%以上の生徒が満足している。		A	A	A	習熟度別授業の満足度は80%を超えている。さらに工夫の余地がある。 専門学科の授業については95%を超える生徒が満足していると答えている。	義務教育と遜色変わらずきめ細やかな指導が素晴らしい。どんな分野でも「好き」になることが重要。どのような工夫を行っているかが大切である。	各学科の目標を達成するために効果的な教育課程を編成する。習熟度別授業や少人数授業の形態や内容をさらに工夫し、より満足度が高まるようにする。
	2 全職員が学校課題について共通理解を持ち、組織的な指導を展開する。	・各職員が[本年度の重点目標]、「羅針盤」を指針として自己目標を設定し、教育活動の改善に努めている。		B	B	B	年度当初の職員会議において、羅針盤の項目を全職員に周知でき、これを指針とする自己目標を設定することができたが、さらに組織的な教育活動を推進したい。	「評価項目」について引き続き協議を十分行い職員全体で目標を共有していくことが必要であると思う。	中間報告時における面談を通じ、自己の教育実践の検証を行い、自己目標達成に向けた修正を行うなどの改善をしていく。
	3 生徒の信頼に応える指導を基本とする。	・自分の学校を好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。		A	A	A	生徒が充実した学校生活を送ることができるよう環境整備に力を入れた。	生徒は入学時の志望動機がはっきりしており、高校生活が充実していると感じた。	生徒の人間関係等を積極的にサポートする体制を強化していく。
II 生徒に健全で意欲的な学校生活を送らせる。	4 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・登校時指導等を通じて、あいさつ・服装・遅刻防止に関する指導を進め、生徒のあいさつができてきているという評価が70%以上(教職員アンケートによる)、服装頭髪指導の係指導の対象となる生徒が15名以下、遅刻指導該当者が年間25名以下である。		B	A	B	昨年度よりも遅刻指導・頭髪服装指導の該当者、問題行動件数がいずれも減少した。日常からの係からの指導だけでなく、職員全体で共通認識のもとに継続して生徒の指導にあたることが大切である。	生徒のあいさつがとてもよい。今後、社会に出て、礼儀や秩序を重んじてほしい。ストレスを上手に発散する術を身に付けてほしい。自分の発言には責任を持ち、相手の立場を考えながら行動するようにしてほしい。	スカート丈やネクタイの指導の他、生徒に目的意識を持たせることによって、問題行動を減少させることが大切である。取り締まる生徒指導でなく育てる生徒指導を実施していく。
	5 交通安全の意識を喚起し交通ルール・マナーの向上を図る。	・自転車点検や事故防止啓発活動を通じて、過失事故や重大事故を0にする。		B	B	B	重大事故はなかったが、自転車による加害事故が軽傷ではあるが2件発生した。生徒の交通ルール・マナーの遵守と向上を一層図っていかねばならない。	冬服時のコートについて、色の指定はないのか。黒系のは夜道で見えにくく危険である。白っぽいものを勧めてほしい。	生徒自身の安全のためだけでなく、他者を思いやるためには何が必要かを考えさせていく必要がある。
	6 生徒会行事等の内容充実を図り、生徒の自主性を伸ばし達成感を得させる。	・校内文化祭や送別会等の生徒会行事に満足している生徒が85%以上である。		A	A	A	生徒会行事に積極的に取り組んでいると答えている生徒は85%を超えている。さらに、生徒が自ら進んで参加できるように、生徒会役員や各実行委員会を中心に進めていく。	次年度の文化祭における地域との積極的な連携を図ってほしい。	次年度は文化祭があるので、年度当初から生徒会活動を活発にしていきたい。
	7 部活動の振興に努め、活気ある学校づくりを進める。	・部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が70%以上である。		B	B	B	部活動の活性化は一定の成果を収めている。生徒・職員に呼びかけ、内容の充実をより一層図る。	対外的な活躍が目覚ましい部活が多く、今後益々の活性化を期待したい。	部活動の加入者の増加と内容に充実をより一層図っていく。
III 生徒に確かな学力・豊かな心を身につけさせる。	8 双方向の授業への取組を進める。また生徒一人一人に対応した指導を行う。	・学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。		C	B	C	研究授業や授業アンケートを活用して授業改善を進めているが、生徒の授業に対する満足度はやや改善しているものの十分とはいえない。	さまざまな指導において、褒めて伸ばすのか、厳しさで伸ばすのか。ぜひ、褒めて伸ばす場面を増やしてほしい。	授業アンケートの結果を謙虚に受け止め、授業改善の取組を継続し、より良き授業を目指した授業研究に組織的に取り組む。
	9 授業時間を確保する。また授業と家庭学習を結び基礎的な学力を定着させる。	・生徒の家庭での1日の平均学習時間は、1、2年生で80分以上である。 ・実用英語技能検定の合格者が、2級5名、準2級40名以上である。		C	C	C	予習・復習状況を細めにチェックするとともに、週末課題を課してきたが家庭学習時間の増加につながっていない。 2級合格者1名、準2級合格者14名であった。	家庭学習の定着化を徹底してほしい。検定資格等へ生徒が意欲的にチャレンジできるように創意工夫が必要である。	家庭で学習する習慣を付けられるような課題の内容や課し方を工夫する必要がある。 第1、2回の英語検定受検者を増やす。部活動顧問に協力を求める。
	10 継続的な読書を通じて知的・感性的に自らを鍛える習慣を育てる。	・「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。		B	B	B	図書館オリエンテーション・POPコンクール・図書講演会・LHR読書会などの行事とおし読書推進の広報活動を工夫して実施できた。	「朝の読書」の定着による効果を具体的に検証してはどうか。	「朝の読書」を中心に据え、読書習慣の確立・読書の質的向上を目指し、統一見解で読書推進に取り組む。
IV 生徒に進路目標を達成させる。	11 自らの進路への関心・意欲を高揚し、学習意欲の向上を図る。	・将来の職業や卒業後の進路について考え、進路実現のための課題を意識できた生徒が80%以上である。		A	A	A	80%以上の生徒が進路を考える際に二者、三者面談や進路学習、進路行事が役に立っていると答えている。	面談の機会を多く取り入れるなどきめ細かい指導の成果がうかがえる。	学年に合った目標・内容を設定する。生徒、保護者にも情報を的確に発信し、それぞれの進路学習に意欲的に取り組ませる。
	12 進路指導に関する情報を共有し3年間を見通した系統的な指導を行う。	・進路を考えるのに進路関係の行事や学習が役立っていると思う生徒が80%以上である。		B	B	B	今年度の進路計画が、進路意識の向上につながったものと評価できる。今後、将来の目標が自発的学習に結びつくような指導を工夫する。	各学年の行事に成果があった。キャリア教育の充実と生徒にまとめや発表させることを充実させたい。	3年間を見通した系統的な進路プログラムを組み、進路の学習や行事を通して、考察力、文章力、発表力等を育成していく。
V 生徒の心身ともに健康で安全な生活が送れるようにする。	13 生徒自ら健康の保持増進に努める姿勢確立のため自己管理に関する指導を進める。	・生徒の健康診断に基づく受診率50%以上。 ・熱中症やインフルエンザの予防に関する情報提供を適切に行う。		A	A	A	生徒の健康診断に基づく受診率は60%弱であった。また、インフルエンザの予防対策を準備する。	前年度に比べ受診率は上昇した。さらに積極的に呼びかけるなど受診をすすめてもらいたい。	歯科の受診率を高める。 インフルエンザが流行った時の対応を万全にする。
	14 心身の健康問題を抱える生徒への適切な対応や指導を行う。	・不登校の生徒0を目指す。		B	B	B	不登校の生徒1名である。	生徒指導(いじめ・不登校)等の相談体制が整っており、件数も少なく驚いている。義務校ではネット等の書き込みも含めて大きな問題となっている。	不登校の生徒0を目指す。
	15 学びの場としての教室等の環境の整備・美化に努める。	・校舎校庭の清掃・美化に努める。		B	A	A	校舎校庭の清掃・美化は徹底されている。	大掃除やワックス掛け等円滑にできた。部室周辺の清掃も改善できた。	校舎校庭等の隅々まできれいにする。
VI 開かれた学校・信頼される学校づくりを進める。	16 保護者との共通理解を促進する。また、地域社会との連携を図る。	・PTA総会、専門学科ガイダンスに積極的に参加している保護者が、前者が50%以上、後者が、80%以上である。		B	B	B	PTA総会の参加者は約40%で、専門学科ガイダンスの参加者は約60%であった。	次年度の文化祭では地域との連携を図ってほしい。防犯安全対策等で地域の協力を仰ぐことができないか。	PTA総会等のPTA行事への保護者の参加を増やす。
	17 webページやオープンスクール等により学校の活動を公開し、外部の意見を取り入れる。	・学校のwebページを月2回以上更新している。オープンスクールで「学校の様子がわかった」と80%以上の参加者が答えている。		A	A	A	学校のwebページは定期的に更新されている。オープンスクールの参加者の満足度は高かった。小学校の運動会の日程と重なり、職員は手薄であった。	学校webページは大変充実していた。特に芸術科のブログは更新頻度が高く、最新の取組の様子がよく分かった。	webページを通じての情報発信を継続する。オープンスクールは実施時期、日程、内容を工夫し、より参加者の満足度が上がるようにする。
	18 校内研修等を通じて職員の使命感の自覚、指導力の向上等に努め、信頼に応える。	・勤務規律に関する啓発を職員会議等で年10回以上行っている。教科別の研究授業、授業研究を実施し、授業力の向上を図る。		B	B	B	職員の規範意識を高めるために、頻繁に勤務規律に関する事例を紹介したり職員研修を通じて喫緊の課題について互いに考える場を設定した。	「Q-U検査」「体罰」に関する職員研修会を実施し、喫緊の課題について再確認する機会を設定することができた。	必要に迫られ研修をするのではなく、普段から強い規範意識を持って校務にあたる。新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の推進を継続していく。